

# 令和5年度 上田市立塩田西小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
かしこく やさしく たくましく  —学校経営ビジョン— 誰もが安心して 生き生きと学び 自主性をはぐくむ学校	「かしこく」 意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」 人やものを大切に子ども 「たくましく」 心と体をきたえる子ども
	今年度の重点目標
	1 安心して取り組める、わかる・楽しい授業づくり
	2 誰もが安心できる学級・学校づくり
3 自分を向上させる心と体づくり	

総合評価					
<p>○学びのUD化を前提に今年度は問いのある授業を切り口に、一人一公開での研修を中心に授業改善に取り組んできた。子どもの意識に沿って課題を設定する授業が多く見られた。これを主体的・協働的な学びの姿へとつなげる支援についての更なる吟味が必要である。</p> <p>○児童アンケートで94%の児童が「先生や友達に、頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれる。」と肯定的に答えている。これに甘えることなく来年度も子どもの声に耳を傾け、支えていくことを教師の姿勢として大事にしたい。</p> <p>○教務会で清掃活動について子どもたちの実態を洗い出し、PDCAのサイクルで全校で重点的に取り組んだ。その結果、時間一杯清掃に取り組み、黙々と清掃する姿が見られた。子どもの実態を掴み、よさは何か、課題は何か全校職員が共有しPDCAサイクルで取り組んでいきたい。</p>					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
授業のUD化の視点に基づき、問いのある授業を職員共通の意識で取り組んだ。課題把握の場面では子どもの意識に沿った授業が見られた。		○			塩田西スタイル(課題把握)を軸に、主体的な学びにつながるよう、子どもの意識に沿った問いのある授業をめざしていく。
一人ひとりの良さを認め、寄り添う支援を心がけた。児童アンケートでは98%の児童が「先生が困ったときに相談にのってくれる」と答えている。	○				不安を抱えている児童の思いを大切に受け止め、どの子も居場所のある学級・学校づくりを目指していく。
清掃を全校の共通課題として、PDCAサイクルで取り組んだ。その成果として、黙々と清掃に取り組む児童の姿が多く見られた。		○			清掃など全校で取り組む課題を明らかにし、PDCAのサイクルで取り組む。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程・学習指導	特色ある教育活動の意識化	・ふるさと体験学習を通して、探究する楽しさや粘り強く追究する意識を持たせることができたか。
		学習に向かう基本姿勢	・全校共通の「塩田西スタイル」の意識し、1時間のゴールが見通せる授業を実践しているか。
		子ども主体の授業	・つける力と学習課題を明確にし子どもの言葉で課題を据え、友だちと関わり粘り強く追究する場を設定し、子どもが主体となる授業を展開しているか。
		授業の3観点の実行	・学びの内容や振り返りや確認を大切に、できた、わかったという実感をもてる授業を展開しているか。
		豊かな自己表現力の育成	・考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場を設定しているか。
	生徒指導・学級経営	挨拶の励行	・職員自ら挨拶をし、心の通う挨拶になるよう、児童との関係を深めることができたか。また、地域に心の通う挨拶を広めることができたか。
主体的に活動する子どもの育成		・目当てを明確にし、子どもが主体的に活動する児童会活動、学年学級の活動の場を設定したか。	
認め高め合う子どもの育成		・児童が「自己肯定感」を高揚させる場の設定や肯定的支援を行ったか。	
たくましい心の育成		・目標設定、行動、見直しのサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。	
学校運営	地域との連携	キャリア教育の推進	・地域講師の支援、地域の大学、高校との交流等により、ふるさと体験学習を充実、発展させているか。
		積極的な情報発信	・学校ホームページ、学校、学年、学級だより、他機関の報道等で情報の発信ができていくか。
		児童の安全確保	・安心メールを活用したり、安心の家、安全ボランティアと連携したりしながら、保護者や地域の方と協力して取り組んでいるか。
	研修	校内研究・研修の充実	・児童理解に立脚した個々に寄せた教材研究を積み、誰もが主体的、対話的に学び、成長の実感できる授業づくりに向けた研修に取り組んでいるか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
昨年並みにふるさと体験学習に取り組んだ。豊富な学習材を子どもの主体的な学びに結びつけていく		○			今までの活動を大切にしながら、教材との出会いを工夫するなど問いのある学習としたい。
授業者がUD化の支援を意識した授業に取り組んでいる。これを基盤に主体的・探究的な学びを目指していく。		○			学習問題、課題を子どもの声から設定していく問いのある授業を目指す。自分に合った学び方ができるような授業形態も考えていく。
一人一公開等で子どもの言葉や意識から学習問題や課題を設定する授業が見られた。今後とも問いのある授業を目指すとともに、協働的な追究を軸とした自分に合った追究ができる授業を構想していく必要がある。		○			塩田西スタイルの課題把握の場面を焦点化し、引き続き授業改善に取り組んでいく。また総合的な学習の充実を図る。
授業の展開を統一したこと、具体的支援を意識したこと、追究・活動時間を確保しつつ、振り返る時間が待てるようになってきた。何を振り返るのか吟味が必要。		○			まともは、学習問題の答えを書くことを意識していく。学習問題からまともまでが一貫する授業を展開する。
協働的な学びが位置付いた授業が多く見られた。話し合いを深めるためには、何を話し合うのか、どのように伝えるのか、誰に伝えるのか更なる手立てが必要である。		○			安心して自分の考えを伝えられる教室の雰囲気作りに努める。また、相手意識を高め、必要感のある話し合いの場を設定する。
職員から進んで挨拶をするよう努めた。自ら挨拶をする・返事を返すという姿には差がある。保護者アンケートからも同様の意見があった。		○			児童同士、児童と職員とが挨拶したくなるような関係にしていきたい。また、児童会と連携し挨拶の輪を広げるとともによい姿も広げていく。
塩田西レンジャーの活動、児童大集会、廊下歩行への取り組みなど、子どもたちは自分達で考えを出し合い工夫して活動をしていた。	○				子どもたちのアイデアを大切に主体的な活動になるようにする。月目標を子どもたちが考え、振り返るよう取り組んでいく。
肯定的支援として教師自ら過程を肯定するよう心がけた。全国学調の「自分には、よいところがあると思いますか」という問いでは、6年生95%が肯定的に答えていた。	○				引き続き、肯定的支援を心がけていくとともに、福祉的交流や異年齢交流により、自己有用感を高揚させたい。
児童会が中心となり、各行事、学期のはじめなど目当て発表を行った。さらに、行事等が終わるとがんばったことを発表する機会をもった。意欲的に取り組み達成感を味わう姿が見られた。		○			児童一人ひとりに応じた目標が設定でき、挑戦することの楽しさや達成感を味わえるような活動を仕組む。また、振り返りの場を設定する。
中学生の職場体験、高校生、大学生、地域の方との交流等、取り組むことができた。今までの活動を大切にしながらも新しい切り口で問いのある活動に発展したい。		○			総合的な学習の時間を中心に問いのある活動が生まれるよう学習材との出会い等を工夫していく。
子どもの姿や学校の様子が伝わるように工夫しながら、学年便りや学校便りを定期的に発行した。また、HPの更新を心がけた。		○			学年便りや学校便りの定期的な発行に加えて、HPを随時更新していく。また、安全・安心に関わる情報発信をタイムリーに行っていく。
4月に安心メール登録の確認をし、全家庭に配信できるようにした。感染症・大雪・猛暑等子どもたちの安全に配慮し、保護者への連絡、注意喚起等を行った。	○				年度当初安心メールの登録変更を速やかに行う。来年度も安全に関わる懸念事象が予想されるが保護者に分かりやすく情報を発信して連携していく。
UD化3つの支援に加え、今年度は問いのある授業を切り口に、授業公開をした。またMIM部会も設け、授業研究を行った。主体的な学びの姿を目指したい。		○			UD化・MIM・Q-Uについて職員の意欲が高まるような研修を図る。研究の切り口を明確にして取り組んでいく。総合的な学習の充実を図る。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった